

2020 - 21 年度 国際ロータリーのテーマ
『ロータリーは機会の扉を開く』
RI 会長 ホルガー・クナーク

川崎北ロータリークラブ会長の方針
『ONE TEAM』
会長 松山 直樹



川崎北ロータリークラブ会報



会長 松山 直樹

幹事 谷口 一成

会報委員長 大塚 正一

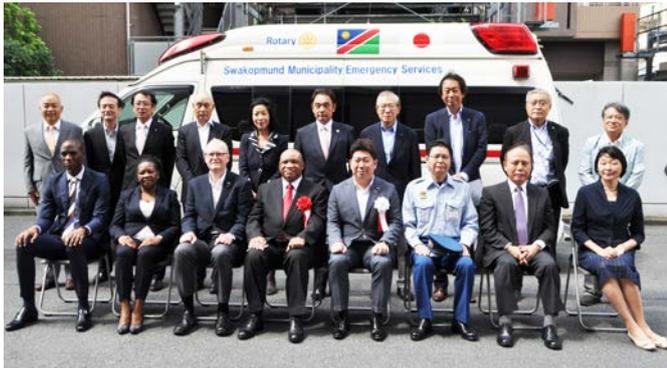
事務所：〒211-0063 川崎市中原区小杉町 3-70-4 ホーユウパレス武蔵小杉 104 TEL 044-722-8037 メール：knrc@nifty.com

URL：http://kawasaki-north-rc.blue.coocan.jp/

例会：毎週水曜日 12：30

二子玉川エクセルホテル東急

令和 2 年 9 月 18 日 (金) 救急車授与式 ～ナミビア共和国へ寄贈～



ご来賓

ナミビア 駐日特命全権大使
モーヴェン M. ルスウェニョ 様
一等書記官 セルマ N. ムニヤマ 様
二等書記官 シマタ マタリ 様
通訳 宮島 としの 様
川崎市 市長 福田 紀彦 様
川崎市 消防局長 日迫 善行 様
一般社団法人 日本外交協会
理事長 辻 優 様
事務局 長 寺田 恭子 様
ナミビア 観光教育スポーツ親善大使・新横浜 RC
ウーリッヒ クルツ 様
新横浜 RC 会長 上村 努 様
川崎中 RC 国際奉仕委員長 渡邊 新治 様
川崎中 RC 直前会長 萩原 ひとみ 様
川崎中原 RC 会長 小林 正樹 様
川崎中原 RC 元会長 市川 功一 様

出席者 (川崎北 RC)

パストガバナー 川野 正久
会長 松山 直樹
副会長 洪 征治
幹事 谷口 一成
直前国際奉仕委員長 松下 幸夫
元会長 松波 登
元会長 大塚 正一

ご挨拶

川崎北 RC 会長 松山 直樹



川崎北ロータリークラブは、2001 年より今まで国際奉仕活動を積極的に行ってきました。その初めが南太平洋の島国・バヌアツ共和国への医療支援でした。マラリア撲滅のため、「撮影装置付き電子顕微鏡」を贈呈したのが始まりです。

2012 年と 2016 年には、川崎市消防局より救急車を贈与いただき、バヌアツ共和国の首都ポートヴィラとエファテ島に送りました。2016 年に訪問したときに、健康省の次官から救急車が住民の命を守って活躍している、また、2020 年にマラリアが根絶される目途がたつたと報告いただき、20 年間をかけたバヌアツ共和国への医療奉仕が大きな成果を迎えようとしていることに大きな喜びを感じました。

今回、クラブとしては 3 台目の救急車を川崎市消防局より贈与いただきました。3 台目はどこの国に送ろうかとクラブで検討・思案しているときに、本日ご臨席の新横浜ロータリークラブのウーリッヒ クルツ さんをご紹介いただきました。クルツ さんはナミビア観光教育スポーツ親善大使を務められており、ぜひナミビア共和国に寄贈してもらえないだろうかという話をいただきました。

川崎市より譲り受けた救急車は、近隣のロータリークラブのご支援とご協力を受け、新車同様に整備してあります。しかし、整備には結構な費用がかかり、また海外に送る輸送費も我々が負担しておりました。そんな中、川崎中原ロータリークラブの市川 様や河合 様から、日

本外交協会の存在を教えてくださいました。そこでさっそく、事務局長 寺田 様にコンタクトを取り、大変有効な助言とお協力、輸送料などの金銭的支援（ODA）をいただくことができました。ありがとうございました。

このように、皆様の力を結集した結果として、本日ナミビア共和国への救急車寄贈式を開催する運びになりました。寄贈させていただく救急車が、ナミビアで人命の救助に役立ってくれることと思います。このような国際奉仕ができるのは、ロータリアンの誇りであり、嬉しい限りです。

最後になりますが、この救急車を提供してくださいました川崎市および川崎市消防局に感謝いたします。ありがとうございました。

ご挨拶 川崎市市長 福田 紀彦 様



川崎北ロータリークラブが主導となり、近隣クラブのご協力の下、日本外交協会のご援助をいただき、本日を迎えられたことに大変考え深いものを感じます。ご尽力いただきました全ての皆様には、心から感謝を申し上げます。

この度寄贈する救急車は、10年間川崎市で活躍し、多くの川崎市民を救ってまいりました。通常、役目を終えた車両は、入札売却処分となりますが、この度は素晴らしいご縁をいただきました。このような活動は、川崎北ロータリークラブでは今回で3回目となります。この活動を通して国際貢献できることは、川崎市といたしましても嬉しいことであり、大変誇りに思います。川崎市民の大切な税金が有効に活用され、救急車が国外で新たなスタートを切るこのような取り組みを、ぜひ多くの市民の方へ知っていただきたいです。

本日ナミビア共和国の駐日特命全権大使 モーヴェン M. ルスウェニョ 様を、川崎にお迎えできることを大変光栄に思います。ここで繋いでいただいたご縁をこれからも大切にしていきたいと思います。

残念なことにナミビア共和国もコロナの影響を受けています。この救急車が海を越えて多くの皆様を救ってくださることを期待しております。

救急車鍵の引き渡し

川崎市市長 福田 紀彦 様
ナミビア 駐日特命全権大使
モーヴェン M. ルスウェニョ 様



川崎市市長 福田 紀彦 様より、ナミビア 駐日特命全権大使 モーヴェン M. ルスウェニョ 様へ救急車の鍵が渡されました。

ナミビア共和国 駐日大使ご紹介

ウーリッヒ クルツ 様



モーヴェン M. ルスウェニョ ナミビア 駐日特命全権大使は、昨年1月に来日されました。通常、大使は一カ国に4年間駐在しますので、日本ではあと約2年の公務になります。大使になる前の1980年代に就いた最初の仕事は教師であり、その後大使に就任してからは、エジプトやアメリカなどに駐在しました。読書、サッカー、ラグビー、相撲鑑賞と自然が好きで、コロナが収まったらまた、日本国内を巡りたいとのことでした。



謝辞

ナミビア 駐日特命全権大使 モーヴェン M. ルスウェニョ 様



川崎市長 福田 様、川崎北 RC 会長 松山 様、ナミビア親善大使 クルツ 様、日本外交協会理事長 辻 様、川崎市消防局長 日迫 様、そして本日お集まりの皆様方と今この式典に出席させていただいていることを大変嬉しく、光栄に思います。

まず、手短かにナミビアについてお話しさせてください。ナミビアは 1990 年 3 月 21 日に独立しました。それ以前は「南西アフリカ」と呼ばれていました。国土の南側は南アフリカ、北側はアンゴラとザンビア、東側はボツワナとジンバブエと国境を接しています。世界で一番古くかつ乾燥していると言われるナミブ砂漠が国土の西側に広がり、ボツワナと国境を接する東側から南側にはカラハリ砂漠があります。ナミビアの人口は 260 万人、世界で 2 番目に人口密度の低い国で、平和な民主的国家です。英語が公用語ですが、他に 11 以上もの現地語が使われています。ナミビアはアフリカ世界に色々な分野の足掛かりや、さらなる成長を求めてやってくる国際的な投資家に様々な機会を提供しています。その分野は、インフラ、物流、都市開発、工場建設、市場開拓、農業、公共事業、観光事業などに及んでいます。1990 年独立当初のナミビア政府は、人間の基本的な権利として「健康（医療衛生）」を優先することを公約し、それまでバラバラだったコミュニティをひとつの医療衛生管理システムの下にまとめました。ナミビアの医療衛生事業を管理しているのが厚生省（Ministry of Health & Social Services）です。（その活動の成果として）人口の 76% に当たる国民は、半径 10km 以内に医療施設がある地域に住むことができますが、まだまだインフラ、医療機器、それらに関連した分野では、遅れがあり不十分な状況です。

今回の COVID-19 のパンデミックは世界中の国々に大変な被害を与えています。ナミビアも例外ではありません。ナミビア政府は、このパンデミックに打ち勝つための努力を惜しみません。他の関連組織と協力し、取り組んでまいります。

ナミビア政府とナミビア国民になりかわり、ここに川崎北ロータリークラブの皆様、日本政府と日本の国民の皆様にご心よりの感謝の言葉を送りたいと思います。そして、この度救急車寄贈の実現に向けて骨身を惜しまずご尽力いただいた皆様に感謝いたします。

最後に、私は皆様に自信を持ってお伝えします。この救急車は我が国で不足している医療移送手段を補う一助として活躍してくれることでしょう。今回の救急車の贈呈は、日本とナミビア共和国間の素晴らしい友好関係を築くための、明らかな発展のひとつであり、私は今後も川崎北ロータリークラブとの将来の絆を期待するとともに、その他の団体、組織、機関などにも更に広がって、良い関係を構築していけることを期待しております。ありがとうございました。

ご挨拶

一般社団法人 日本外交協会 理事長 辻 優 様



一般社団法人 日本外交協会は、戦後、尾崎聖堂翁の指導のもと、政・財界、学界、言論界の諸先達によって（社）民主外交協会として設立されました。

この度は、川崎北ロータリークラブが中心となり、近隣クラブのご協力の下、川崎市からナミビア共和国へ救急車を寄贈する運びとなり大変嬉しく思いますと同時に大変敬意を表します。また、日本外交協会としてこのプロジェクトに協力できることを嬉しく思います。

大使からもお話がありましたように、コロナの問題が世界中で話題になっており、公衆衛生における関心が集まっています。この度寄贈されます救急車がコロナをはじめとする感染症の問題だけでなく、ナミビアの皆様の健康に広く貢献できると考えます。このような活動は、市民、国民レベルでの国際協力の良いお手本となります。また、両国民同士の友好親善においても大きな貢献に繋がると確信をしております。

私自身、僭越ながら日本外交を担ってきたものとして、心より御礼を申し上げます。

閉会の言葉 谷口一成 幹事



ナミビア 駐日特命全権大使モーヴェン M. ルスウェニョ様、川崎市長 福田 様、川崎市消防局長 日迫 様、ナミビア親善大使 クルツ 様、日本外交協会理事長 辻 様、またご協力いただきました近隣クラブの会員の皆様、本日は式典にご出席いただきまして、誠にありがとうございました。

ついにナミビア共和国へ救急車を寄贈する運びとなり大変嬉しく思います。こちらのプロジェクトには、川崎市消防局の皆様より多大なご協力をいただきまして、達成できました。

これで終わることなくこれからも国際貢献を進めていけるよう、我々ロータリークラブとして様々な活動をしてまいります。本日はお忙しい中、またコロナ禍にも拘わらず、お集まりいただきありがとうございました。

作業風景

6月23日、25日には、車両の整備にも携わっていただきました松波 会員が中心となり、松下 直前国際委員長と共に、ステッカーの貼り付け作業を行いました。梅雨が明け猛暑の中、作業お疲れ様でした。



式典当日の様子



※一部写真は、タウンニュースからご提供いただきました。